



秋葉区「九条の会」事務局  
新津教育会館内  
新潟市秋葉区善道町2-9-44  
Tel 0250-23-0764 Fax 0250-23-0764  
<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

## 平和憲法を守る「ロングラン宣伝」

### 6月3日より23日間実施しました！

日本国憲法改悪への動きが急ピッチで進んでいます。秋葉区「九条の会」は、さまざまな団体や個人と協力して、宣伝カーによる「平和憲法を守れ」の呼びかけを、6月3日より23日間にわたって行いました。市民の皆様の中には、手を振ってくれる人がいました。

7月21日の参議院選挙によって日本の政治情勢は大きく変わりました。民主党の地滑りの敗北によって、自公が圧勝し、その一方で日本共産党が躍進しました。保守勢力の2大政党論は破たんし、新しい政党配置の時代に入りました。

安倍内閣は、選挙の結果に力を得て意気込んだところで、麻生副総理の「ナチスの手口に学べ発言」が問題となり、沖縄では米空軍・HH60救難ヘリコプターが墜落しました。平和憲法を守ることの重要さがますますはっきりしてきたといえます。

日本国憲法は、多くの人々の命と引き換えにできた「かけがえない宝」です。子や孫に残す大切な財産です。世界に誇れる日本の平和憲法を守りましょう！ 再び戦争はしないと決めた日本国憲法を守りましょう！

憲法9条を変えて、「国防軍」をつくらうとする動きが進んでいます。軍事力で解決しようとするれば、世界中にテロや憎しみを広げるだけです。武力や暴力では国際紛争は解決しません。21世紀には日本国憲法9条が必要です。世界に誇れる「日本の宝」日本国憲法を守りましょう！



アナウンスの原稿と宣伝カーの写真

## 法制局長官をすげ替えて集団的自衛権の容認へ

安倍首相は内閣法制局の山本長官を退任させ、小松一郎駐仏大使を充てるとしています。小松氏は、2006年の第一次安倍内閣当時の外務省国際法局長であり、集団的自衛権行使容認論者です。

憲法9条を改悪したいが、国民の反対が多い。すんなり認めてもらえるよう96条先行改正論を持ち出したがそれもうまくいかない。それではと、奥の一手が、法制局長官の首をすげ替えでした。これはひどい。法治国家としての最低限のルールも守らないものであり、暴挙と言う他ありません。

## 平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、  
皆でつなく、平和のメッセージを！

### 「憲法について思うこと」

開発 裕(金沢町)

日本国憲法とそれを取り巻く政治情勢について、学んだとしたら学生時代に一般教養の授業があった程度で、卒業後は選挙の時にテレビや新聞等で「憲法」についての各党の主張を目にする程度だったと思います。

今年の三月に「九条の会」講演会前のアトラクションとして、妻とギターを引く機会を頂き、大勢の皆様の前で緊張しながらも演奏しました。その出来映えはともかく、マイク類を使わない生の楽器の音が、広い会場の後方の方々には聴こえにくかった？と案じています。弾く側としてはマイクに遮られることなく、生の音の余韻を楽しむのが理想ですが、大勢の皆様にはちゃんと聞こえる状態で楽しんでもらうには「音量不足」という課題があります。

講演会冒頭の挨拶で板橋さんが「九条の会の活動を広める為には数の力が必要だ」と述べておられたと思います。このことはギターが

抱える音量不足の問題と共通すると思います。マイクやアンプ類を使えば「広い場所で聴こえない」問題は解決しますが、うまく調整しないと本来のギターの音とは異質の、機械的で味気無い音になってしまうという問題が発生します。

「憲法を守る」考えの団体や個人は数多く存在しているでしょうが、その全てが一つに集まって一致団結して改憲勢力と戦っているのか？  
たとえば、九条の会を別にして様々な主義や政策の違いからか、バラバラに活動している部分があるのではないのでしょうか？

最近の参議員選挙や昨年の中議員選挙において、普段は派閥争いを繰り返す自民党ですが、こと「選挙に勝つ」目的の為には見事に一致団結して、豊富な資金力とネットも駆使した巧みな広報戦略によって歴史的な大勝利を収めました。一方で本来は憲法を守る勢力として団結して戦うべき野党の多くは、わずかな違いから互いに批判し、その挙句が無残な結果となっているように私には思えます。

さて、三月の講演でお聞きした小森教授のお話は、幅広い話題を力強くユーモアにあふれたもので強い感銘を受けました。今後私なりに学んで、憲法について理解を深めたいと思います。

## 「国防軍の命令拒否は死刑」…自民党石破幹事長発言

4月21日に放映された「週刊BS-TBS報道部」で、石破茂幹事長は、自民党改憲草案の軍事審判所(軍法会議)の中身を問われ、次のような発言をしました。

「国防軍の出動命令に従わない者に対し、(今の法律では)めいっばいって懲役7年。死ぬかもしれないし、行きたくないなという人がいない保証はない。だからその時に従わなければその国における最高刑に死刑がある国なら死刑、無期懲役なら無期懲役、懲役300年なら300年」軍の命令が出れば、無謀極まりない作戦であっても、「無条件に従え」という戦前の暗黒体制に引き戻すものです。一度、軍法会議が復活すれば、対象が軍人にとどまらず、機密を取り扱う公務員、ジャーナリスト、研究員、軍事製品に携わる労働者にも広がり、息の詰まるような社会に逆戻りします。